生活文教常任委員会-視察

生活文教常任委員会では、7 月 15 日から 17 日まで、奈良県天理市、京都府亀岡市、滋賀県野洲市を訪問し、子ども・若者支援、環境施策、生活困窮者支援・重層的支援体制について行政視察を実施しました。

今回視察した 3 市では、それぞれ異なる行政課題を扱いながらも、個別の制度や行政組織だけで課題を解決するのではなく、庁内の分野横断的な連携や、市民、地域団体、事業者等との協働により、既存の施設や地域資源、人材を活かしながら、新たなつながりや仕組みを生み出して施策を構築している点が共通していました。今回確認した各自治体の取り組みは、当町における学校施設のあり方、子ども・若者支援、環境施策、包括的な相談支援体制を検討する上で、今後の施策検討に資する取り組みでした。



奈良県天理市

学校施設の複合化と子ども・若者支援について

天理市では、人口減少や学校施設の老朽化が進む中、小規模校を安易に統廃合するのではなく、学校を地域の支え合いの拠点として活用する「みんなの学校プロジェクト」を進めています。学校教育を「第一部」、学童保育や放課後活動などを「第二部」、生涯学習や社会教育など地域住民の活動を「第三部」とする「学校三部制」の考え方を取り入れ、学校施設を地域全体で活用しています。

R6 年 4 月には教育総合センター内に「子育て応援・相談センター～ほっとステーション～」を開設しています。学校・園・所だけで複雑化する課題や保護者対応を抱え込むのではなく、専門的な相談窓口が課題を整理し、子どもを中心に学校・家庭・関係機関が連携して解決を図る体制を構築しています。



京都府亀岡市

プラスチックごみゼロ環境施策について

亀岡市では、保津川の漂着ごみ問題を契機として「2030 年までに使い捨てプラスチックごみゼロを目指す」取り組みを進めています。レジ袋提供禁止条例の制定に加え、給水スポットを市内 130 か所以上に拡大し、リユース食器の利用補助、企業との環境協定、ごみ拾いしながら街をウォーキングするエコウォーカーなど、市民が日常生活の中で参加できる仕組みを展開しています。

「燃やすごみ」を「燃やすしかないごみ」と表現するなど、分別行動を促す情報発信の工夫や、「こども海ごみ探偵団」や企業と連携した環境教育、サーキュラー亀岡ラボでのリユース・リペア活動など、規制だけでなく教育、地域経済、市民参加を組み合わせて環境施策をまちのブランド形成につなげている点が特徴です。



滋賀県野洲市

生活困窮者支援 重層的支援体制について

野洲市では、「制度を見るのではなく人を見る」「課題を見るのではなく暮らしを見る」との考え方のもと、市民生活相談課を中心とした「断らない相談体制」を構築しています。H28 年制定の「野洲市くらし支えあい条例」では、行政組織全体で生活困窮者等の発見と支援に取り組むことを位置付けています。特徴的なのは、税や保険料等の滞納を単なる徴収の対象ではなく、生活上の困難を示す SOS として捉え、家計改善、就労、福祉、法律相談等につなげて生活再建を支援する点です。

市役所内に設置された「やすワーク（ハローワーク）」により生活相談と就労支援を一体化し、不登校生徒についても卒業後に支援が途切れないよう福祉・教育・就労機関が連携する移行支援を実施しています。